



デメテル Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.61

Newsletter of Gunma Museum of Natural History 2014.秋

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。



2014
10.4(土) ▶ 11.30(日)

ヤマネ 撮影協力: 恩賜上野動物園

つぶらな大きな眼、たくさんの敏感なヒゲ、敏感な手、敏感な鼻、大きな耳・・・いずれも、夜行性動物の特徴です。主に夜になると活発に活動する夜行性動物は、「見る」「さわる」「においをかぐ」「味を感じる」「聞く」といった5感のうち、その一部、あるいはすべての感覚が昼行性の動物に比べてすぐれています。普段、あまり目にすることはありませんが、夜行性の動物たちは、私たちが暮らしている場所の周りにも、北の大地にも、南の大地にも、そして、海の中にも暮らしています。本企画展では、そんな夜行性動物たちの世界を、展示室内につくり出しました。どうぞお楽しみください。※展示室は、標本保護と演出のため、照明を暗くしています。足元に注意してお楽しみください。

講演会 「小さな宇宙 —動物プランクトンの世界—」

- 講師: 東京大学大気海洋研究所国際連携研究センター 教授 西田 周平
- 日程: 10月12日(日) 13:30~15:30 ■会場: 当館学習室 ■定員: 100名 ■参加費: 無料

自然教室 「群馬サファリでアフリカの夜行性動物たちを観察しよう」

- ガイド: 群馬サファリ職員
- 日程: 10月13日(月・体育の日) 17:30~20:30
- 会場: 当館企画展示室 群馬サファリパーク(受付は当館エントランス、その後バスで群馬サファリへ移動)
- 定員: 40名 ■参加費: 1,050円(中学生以下550円) 群馬サファリ入場料+保険料

自然教室 「夜の海の生きものたちを観察しよう」

- 講師: (公財) 神津牧場体験・教育プログラム担当(元・葛西臨海水族園解説スタッフ) 庄山 由美
- 日程: 11月16日(日) ①11:00~11:30 ②13:30~14:00
- 会場: 当館企画展示室 ■定員: 各回10名 ■参加費: 観覧券が必要

※申込方法は、各イベント開催日の一ヶ月前の9:30より電話で受付(先着順)。

展示 詳解

カラー魚拓アーティスト 山本龍香の世界

開催期間：

2015年1月2日(金)～2月22日(日)
常設展観覧券でご覧になれます

魚拓とは魚の拓本^{たくほん}の意味で、直接法と間接法の2つの手法があります。直接法は魚に直接墨を塗り、その上から紙を押しつけて写し取る方法です。間接法では、まず、魚の表面にのりを塗り、その上に布をのせて固定します。次に、その上から油性のインクをしみこませたタンポでたたき、何色もの色を重ねながら体表の凹凸を写し取ります。間接法は手間はかかりますが、魚が生きていたときの色や細部の形を再現することができます。

写真はダイオウイカのカラー魚拓です。国立科学博物館新宿分室でホルマリン保存されていた全長6.7m(採集時)の標本で、保存水槽から出して触腕^{しよくわん}と腕を伸ばし、間接法によって制作されました。ダイオウイカが水中を泳ぐ姿が色鮮やかに表現されています。動物界で最大と言われているダイオウイカの眼には、ある生物が映っています。詳しくは会場をご覧ください。(学芸係 金井 英男)



制作 山本 龍香

自然のコラム 岩神の飛石のなぞ

みなさんは岩神の飛石をご存じでしょうか。岩神の飛石とは、群馬県前橋市昭和町3丁目に鎮座する岩神稲荷神社の境内裏にある巨岩の名前です。周りは比較的平坦な地形をしているのに、岩神の飛石は地表から十数メートルも突き出ているのです。地下でどのような大きさや形をしているのかわかりませんが、不自然な場所に不自然に大きい岩があるということはわかっていただけたと思います。

岩神の飛石は地表から顔をのぞかせている岩盤ではなく、大きな転石であると考えられています。転石というのは、岩盤などから崩れて運ばれてきた岩石のことです。では、岩神の飛石ほど大きい岩が、「いつ」「どこから」「どのように」運ばれてきたのでしょうか。これらが岩神の飛石に関する3つのなぞなのです。



もともと岩神の飛石は、赤城山の火山でできた岩石が運ばれてきたものだとされていました。一方、比較的新しい仮説では、岩神の飛石は浅間山の火山でできた岩石が運ばれてきたものだとされています。つまり、岩神の飛石の起源がよくわかっていないのが現状なのです。

起源がよくわからない理由のひとつとして、岩神の飛石が国指定天然記念物なので、岩神の飛石を研究の材料にできないということが挙げられます。しかし、岩神の飛石のなぞを解き明かすために、前橋市教育委員会が主動して、岩神の飛石の起源を探るプロジェクトが立ち上がりました。文化庁から岩神の飛石を研究材料としても良いとの許可が下り、自然史博物館の学芸員がハンマーを使って岩神の飛石を採集しました。これから、顕微鏡観察や分析を行って、岩神の飛石の3つのなぞに挑んでいきます。(学芸係 菅原 久誠)

動物の行動時間

上野村地域学術調査から

自然史博物館では、開館以来、群馬県内の自然史調査を継続して実施しています。現生哺乳類の分野では、多くの方々のご協力をいただきながら、現在、県内8箇所を中心に約120台の赤外線センサーカメラを設置して、動物相のモニタリングを行っています。

なかでも、現在、カメラ台数を増やして集中的にモニタリングを行っているのが、上野村です。平成23年度から平成25年度に、自然史調査対象地として上野村を設定し、調査を行い、平成26年度からは隣接する神流町、南牧村、下仁田町に調査範囲を広げて継続中です。

さて、上野村では、針葉樹や広葉樹の人工林、広葉樹二次林などが多い場所に、25台のカメラを設置しました。使用した赤外線センサーカメラは、Trophy Cam (Bushnell社製)です。撮影されたデータを分析したところ、今回カメラを設置した場所では、ニホンジカ、ニホンカモシカ、イノシシ、ツキノワグマ、ニホンザル、ハクビシン、タヌキ、アナグマ、キツネ、テン、イタチ、ウサギの他、ネズミ類が確認されました(写真1~4)。



写真1 撮影されたオスジカ



写真2 撮影されたクマ

時間帯別に動物の撮影回数をみると、タヌキ、アナグマ、ハクビシン、テン、イタチ、ウサギ、ネズミ類などの小獣類は、17時台から6時台までに多くが撮影され、アナグマについては6時台から17時台にも撮影されていました(図1)。シカは、日の出をさむ5時にピークがあり、日没前後の17時、18時台に

多く撮影されていました(図2)。シカ、カモシカなどの草食動物は、主に夕方から早朝にかけて活動しますが、どちらかというとも薄明薄暮型の行動をとり、餌となる草を反芻胃に詰め込み、安全なところでゆっくり嘔み戻しをする姿がよくみられます。クマは5時台と21時台にピークがあり、日の出前、日没後に撮影される傾向がありましたが、一部、午前中に撮影されるケースも確認されました(図3)。クマは、早朝や夕方など薄暗い時間に最も活動するようです。しかし、クマは、奥山の安全な生息場所ですごしている時には朝夕を中心に活動しますが、人里に出没しはじめると主に夜間に活動するようになることが最近の研究で報告されるようになってきました。

動物たちが夜間活動、あるいは、薄明薄暮型を行うのは、明るい昼間は天敵にねらわれやすい、黒い体色や表面積の小さな動物などは昼間の直射日光で体温が過剰に上がりやすい、あるいは、生息環境における時間的な棲み分けなど様々な環境適応の結果によるものと考えられています。ただ、その生態は比較的柔軟で、自然環境の変化に応じて行動を変化させることも可能です。今後、野生動物の行動形態がどのように変化していくのか、あるいは、変化しないのか、継続的に調査をしていきたいと考えています。

(学芸係 姉崎 智子)



写真3 撮影されたテン



写真4 撮影されたアナグマ

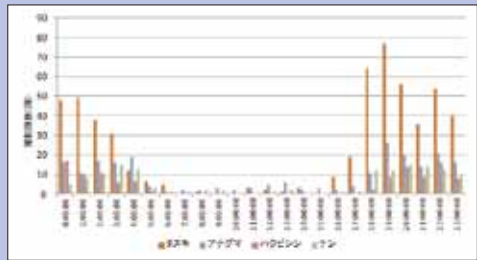


図1 タヌキ、アナグマ、ハクビシン、テンの時間帯別撮影回数

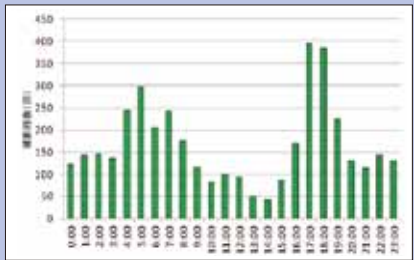


図2 シカの時間帯別撮影回数



図3 クマの時間帯別撮影回数

県内で分布を広げるチョウ アカボシゴマダラ

アカボシゴマダラは中国、朝鮮半島に分布します。日本では奄美群島で見られますが、斑紋の違いから大陸のものとは別亜種に分類されています。最近になって関東地方を中心に分布の拡大が続いています。当館に収蔵されている最も古い個体は2012年8月に伊勢崎市宮前町で採集されたものです。アカボシゴマダラは何者かが海外の個体を持ち込み放したと見られています。アカボシゴマダラの幼虫の食樹は在来の近縁種ゴマダラチョウと同じエノキです。成虫は樹液に集まります。このように両者の生活様式はよく似ています。ゴマダラチョウは幼虫でエノキの落葉の裏で越冬します。そして春になるとエノキの幹を登ります。公園などでは落葉は幼虫と共に取り除かれてしまうことがあります。アカボシゴマダラは落葉の裏以外に、枝や幹の表面で越冬することが知られています。両者が競合した場合、アカボシゴマダラの繁殖力の方が強いことが指摘されており、「要注意外来生物」に指定されています。

(学芸係 高橋 克之)



写真 アカボシゴマダラ 撮影 佐藤 伸一



写真 ゴマダラチョウ 撮影 青沼 秀彦

学芸員解説ツアー

当館では、ご来館いただいた皆様に「自然史」の魅力をご堪能いただけますように、展示室内に解説員が常駐生の声で展示についての解説を行ったり、ご質問にお答えしたりしています。そして、さらに専門的な解説を聞いていただくことを目的としたイベントが「学芸員解説ツアー」です。名前の通り、資料収集、整理保存、調査研究、展示の企画等を行っている学芸員の職員が、展示をもとに最新の研究成果を交えながら解説を行います。大人の方はもちろんですが、小学生でも理解できるようにわかりやすい解説を工夫しており、時には研究の裏話などもお聞きいただけます。時間も40分間ですから、通常のご観覧の合間にお気軽に参加いただけると思います。年4回しか行わないイベントで、今年度はすでに2回が終了しました。今後の予定は、以下の通りです。

10月19日(日)

①13:30～14:10

学芸係 姉崎 智子(哺乳類・鳥類担当)

②14:30～15:10

学芸係 高栗 祐司(動物化石・植物化石担当)

11月9日(日)

①13:30～14:10

学芸係 木村 敏之(魚類・海生哺乳類担当)

②14:30～15:10

学芸係 茂木 誠(無脊椎動物・天文担当)



定員は各回10名、小学校4年生以上の方におすすめのイベントで、観覧券をご購入いただければ他に費用はかかりません。1ヶ月前の午前9時30分から予約を受け付けておりますので、「いつもとはちょっとちがう観覧」を体験されたい方は、ぜひご予約ください。

(教育普及係 市川 光早)

利用案内

■開館時間 午前9:30～午後5:00(入館は午後4:30まで)

■休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)

■観覧料

	一般	高校・大学生
常設展のみ開催	510円	300円
第47回企画展開催時 (H26.10.4～11.30)	720円	410円

※中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料となります。

※有料者20名以上は団体料金で2割引となります。

群馬県立自然史博物館だより
Demeter No.61

編集・発行 群馬県立自然史博物館
〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250
ホームページ
<http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>